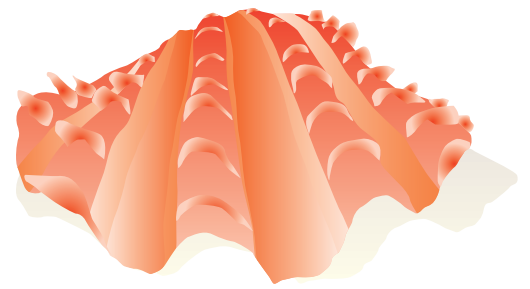


# SCOPE



Coverphoto・Essay / Ikuo Nakamura

## ハマクマノミの頭脳プレー

サンゴ礁を彩る魚の代表格は、なんといってもクマノミだと思ふ。エダサンゴやテーブルサンゴが密集するその中に、イソギンチャクに共生する、ひときわ美しいクマノミの姿がある。誘われるままにぶつからんばかりの距離に接近し、チョンと噛まれて我に返ることもしばしばだ。



©IKUO NAKAMURA

沖縄には6種類のクマノミが生息している。写真のハマクマノミを代表に、カクレクマノミ、セジロクマノミ、ハナヒラクマノミ、トウアカクマノミ、そしてクマノミの6種だ。

中でも、ハマクマノミの家族思いには、心底感心させられる。写真のクマノミはオスで、体長は約7cm。メスは逆に10cmと大きく、家族の大黒柱でもある。オスの表情が上目遣いに不安心なのは、メスがイソギンチャクから遠く離れてしまったからだ。

ハマクマノミのファミリーに不審な者が接近すると、体の大きなメスは身を挺してその者を追い払う。それでも相手がひるまずにいると、わざとおとりとなって、触れんばかりの距離まで近づいてくる。そのメスに気を取られてどこまでも付いていくうちに、いつの間にかファミリーからは遠く離れているという寸法だ。ある程度、不審者を引き離したところで、ハマクマノミのメスは、あっという間にサンゴの合間に隠れ、素早くファミリーの元へと戻っているのだ。

この頭脳的プレーに、僕は何度騙されたことだろう。それでも学習しないということは、僕のオツムはクマノミより劣る、ということか。

### Profile

#### 中村征夫(なかむら・いくお)

1945年 秋田県生まれ。水中写真家。20歳のとき自己流で潜水を始め、撮影プロダクション水中造形センターを経て77年よりフリーの水中写真家として活動。『全・東京湾』『海中顔面博覧会』『白保』(情報センター出版局)、『ガラバゴス』(集英社)、『カムイの海』(朝日新聞社)、『海のなかへ』『熱帯夜』(小学館)、『沖縄珊瑚海道』(アスペクト)など多くの著書・作品集がある。第13回木村伊兵衛写真賞、第9回文化庁芸術作品賞、第12回東川写真特別賞、第28回講談社出版文化賞写真賞、ほか受賞多数。近日、写真展「沖縄珊瑚海道」(5/4~5/16札幌富士フォトサロン)初のデジタルカメラ写真展「インドネシア・メナドの海」(5/10~5/23オリンパスプラザギャラリー)を開催する。



### 編集後記

今年の巻頭企画は「学びへのいざない」をシリーズで掲載しています。最近、学びたいと思う大人が増えている、社会人大学講座やカルチャースクールは大盛況と聞きます。昔は苦手だったり、つまらなかった教科も、いろいろな知識をもった上で見直してみると案外おもしろいのでは?というわけで、各界の著名人をナビゲーターに迎え、その科目の魅力や大人ならではの深い楽しみ方をご紹介します。ブックガイドをご参考に、ちょっと夜更かして数学の問題に取り組んでみませんか?みなさまの「知」への好奇心をくすぐってみたいと思います。(T.S)

FIND 2001年4月発行 Vol.19 No.2/No.3 通巻92号  
発行 富士通株式会社 電子デバイス事業本部  
企画編集 FIND編集委員会  
お問い合わせ先 富士通株式会社 電子デバイス事業本部  
FIND編集事務局  
〒197-0833 東京都あきる野市湊上50番地  
TEL 042-532-2169 FAX 042-532-2553  
印刷 株式会社シーコーポレーション